

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
小泉 友則	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
『子どもの性欲の近代 — 幼児期の性の芽生えと管理は、いかに語られてきたか』出版	
3. 助成額	
500,000	円
4. 実施期間	
2019 年 7 月 ~2020 年 6 月	
5. 実施状況	
2019 年	
7 月初旬 出版助成の決定を出版社(松籟社)へ報告	
7 月下旬 今後の予定について打ち合わせ	
7 月下旬	
~8 月中旬 本編の手直し作業	
10 月中旬 編集者との打ち合わせ・	
11 月中旬 出版社から初稿が到着	
12 月	
2020 年	
~1 月中旬 編集者の方と連絡を取り合いながら初稿の修正・提出、 出版助成金を出版権者へ送金	
3 月中旬 第二稿の到着	
4 月中旬 編集者の方と連絡を取り合いながら第二稿の修正・提出	
5 月中旬 最終稿の到着	
5 月下旬 最終稿の修正・提出、装幀の決定	
6 月初旬 ゲラの到着・修正・提出	
6 月中旬 印刷および製本	
6 月下旬 松籟社より刊行	

6. 事業成果と自己評価

四六判・上製・496頁・縦組み・カバー装(4色印刷)

初版発行部数:500部

初版発行日:2020年6月30日

発行元:株式会社松籟社

本書は、近世後期から明治期における、思春期以前の「子どもの性欲」をめぐる学識者の主張を分析し、「小さな子ども」の「性欲」の問題が学識者によって語られていたことを明らかにしながら、近代に「無邪気で無垢な子ども観」と「性的な子ども観」が同時進行的に生じたことを論じている。

近代日本においては、「子どもの性欲」という問題をめぐって、これまで考えられてきたよりも非常に数多くの議論が展開されていた。例えば、植民地主義的思想の影響で「女兒の性的早熟」という現象が学識者に着目されていた。「わたしはどこから生まれたの?」という子どもの「誕生に関する質問」が、子どもの「性欲」の発生に関わると問題化されていた。また、近代における世界的な「性教育」論のムーブメントが、日本における「子どもの性欲」をめぐる議論の起爆剤の一つとなったことも、詳細な「性教育」の歴史研究の振り返りの中から明らかにした。

そして、本書では、上記の学識者たちの「子どもの性欲」に関する研究が、いかに女性差別的な視点を含むものであったのかということも明らかにしている。彼らは、「子どもの性欲」の研究を進めるために、女性、つまり女兒の身体といったものを、(身勝手に)利用していた面があったのである。

本書の出版は、ジェンダー・セクシュアリティの歴史研究、教育史・児童文化史研究に新たな知見をもたらすことになるだろう。

7. 提出成果物

出版助成を得て刊行された書籍

書籍名:『子どもの性欲の近代—幼児期の性の芽生えと管理は、いかに語られてきたか』

著者名:小泉友則

